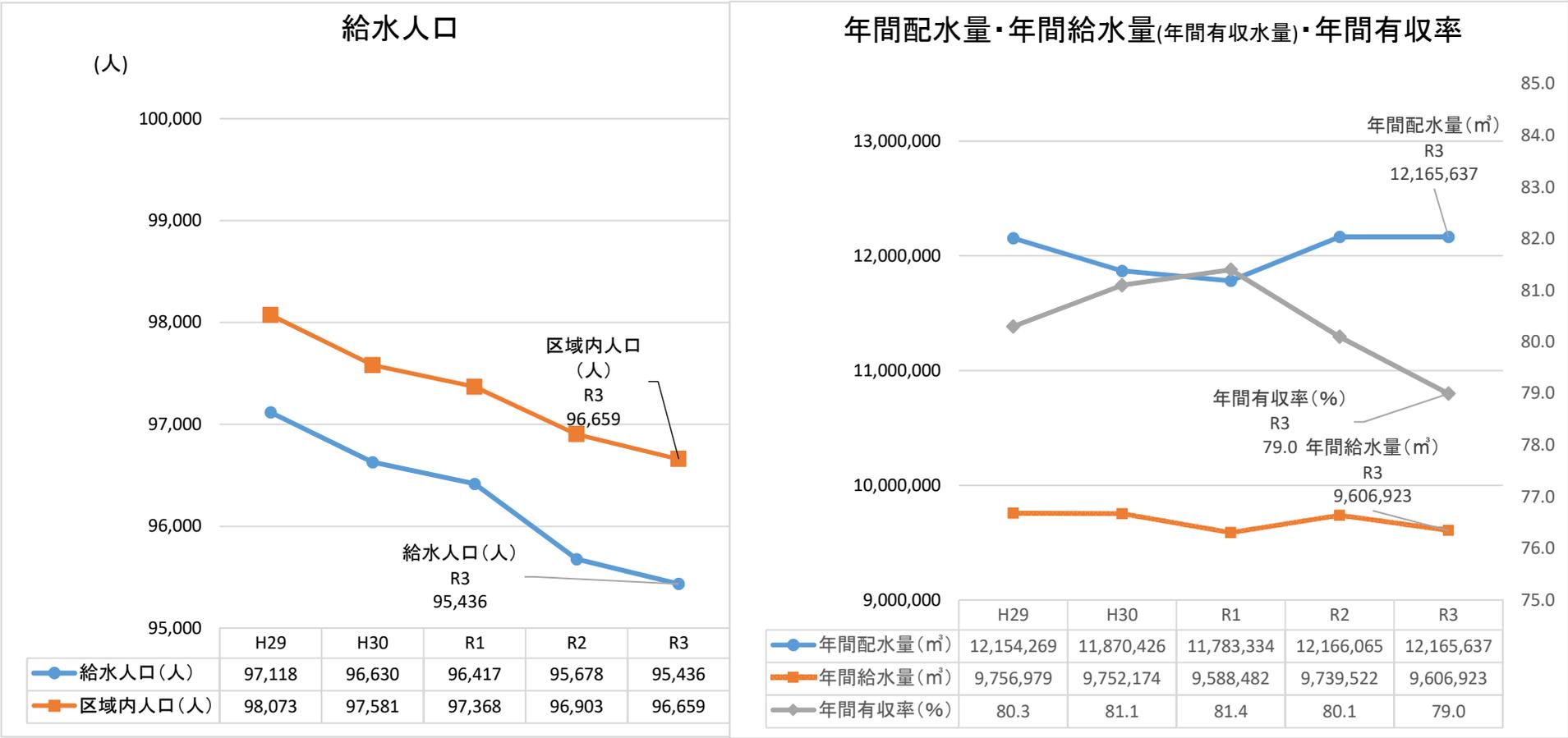


令和3年度 安曇野市上下水道事業 決算概要

I 水道事業決算概要

1 業務量 (決算書 23ページ)



2 収益的収支（損益計算書）（決算書 4～5ページ、23ページ、26～29ページ）

水道水を作り、みなさまへお届けするための収支状況です。

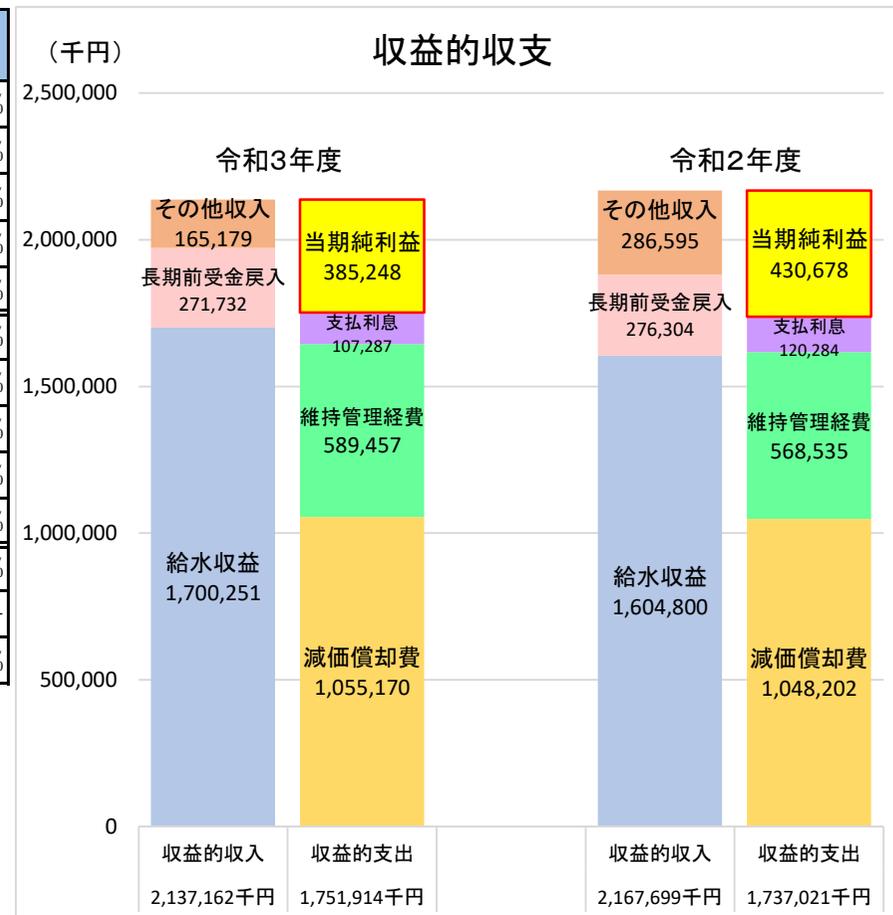
水道水がどのくらい売れて、その水道水を供給するまでにどのくらいの費用がかかっているのかを表しています。

（千円）※消費税抜き

収益的収支	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
営業収益	1,862,859	1,765,493	97,366	5.51%
うち給水収益	1,700,251	1,604,800	95,451	5.95%
営業外収益	274,303	402,206	△ 127,903	△ 31.80%
うち長期前受金戻入	271,732	276,304	△ 4,572	△ 1.65%
収益計 ①	2,137,162	2,167,699	△ 30,537	△ 1.41%
営業費用	1,643,452	1,615,097	28,355	1.76%
うち減価償却費	1,055,170	1,048,202	6,968	0.66%
うち資産減耗費	16,143	9,373	6,770	72.23%
営業外費用	108,462	121,924	△ 13,462	△ 11.04%
費用計 ②	1,751,914	1,737,021	14,893	0.86%
経常損益 ①-②	385,248	430,678	△ 45,430	△ 10.55%
特別損益	0	0	0	-
純損益	385,248	430,678	△ 45,430	△ 10.55%

損益では、総収益が21億3,716万2千円で、総費用は17億5,191万4千円となり、純損益は3億8,524万8千円の黒字で、前年度に比べ4,543万円減少となりました。令和3年度は前年に比べ営業収益が増加となりましたが、営業外収益が大きく減少したため、収益全体では3,053万7千円の減少となりました。

費用は動力費の増加を主な要因として、全体で1,489万3千円増加したため、純損益は減少となりました。



3 資本的収支 (決算書 2～3 ページ)

水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支		令和3年度	令和2年度	増減	増減率
資本的収入 (a)		133,610	258,023	△ 124,413	△ 48.22%
	うち企業債	0	83,000	△ 83,000	皆減
資本的支出 (b)		1,310,248	1,773,919	△ 463,671	△ 26.14%
	うち企業債償還金	596,412	587,015	9,397	1.60%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,176,638	△ 1,515,896	339,258	△ 22.38%
上記補てん財源	消費税資本的収支調整額	59,294	103,131	/	
	損益勘定留保資金(※1)	767,344	1,062,765		
	建設改良積立金	350,000	350,000		

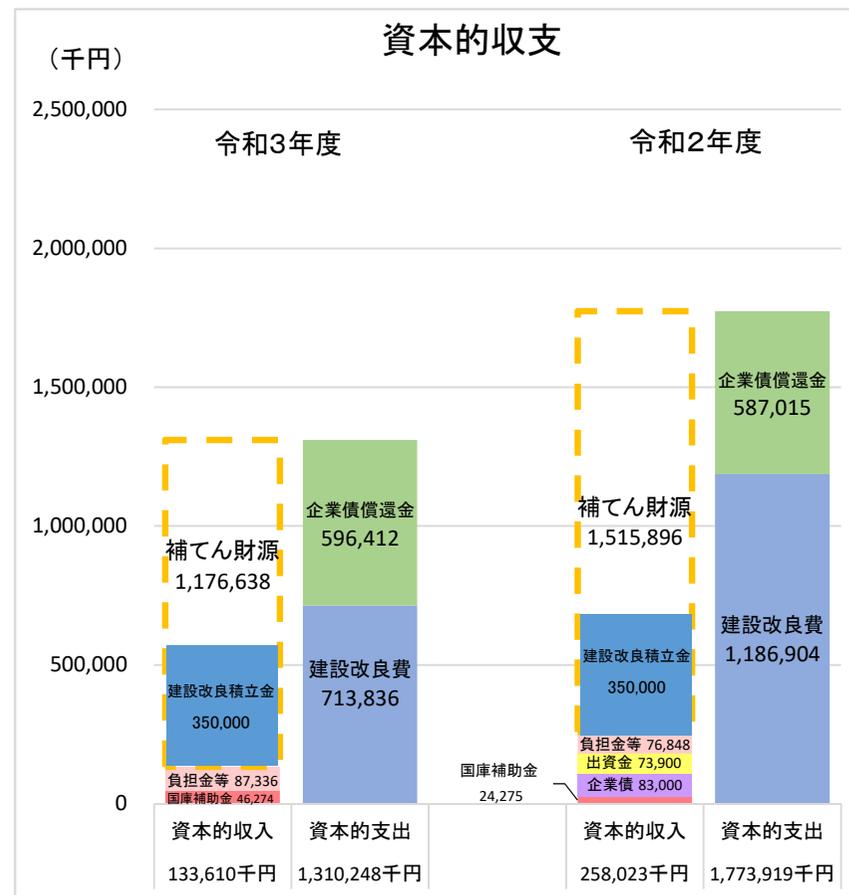
資本的収入は1億3,361万円で、企業債及び一般会計出資金の減少により1億2,441万3千円減少しました。

資本的支出は13億1,024万8千円で、令和2年度に豊科・明科地域整備事業が完了したことに伴い建設改良費が減少したため4億6,367万1千円減少しました。

収支差引で不足する11億7,663万8千円は、過年度分損益勘定留保資金7億6,734万4千円、建設改良積立金3億5千万円の取り崩しなどで補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費など現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



4 貸借対照表 (決算書 8～9ページ)

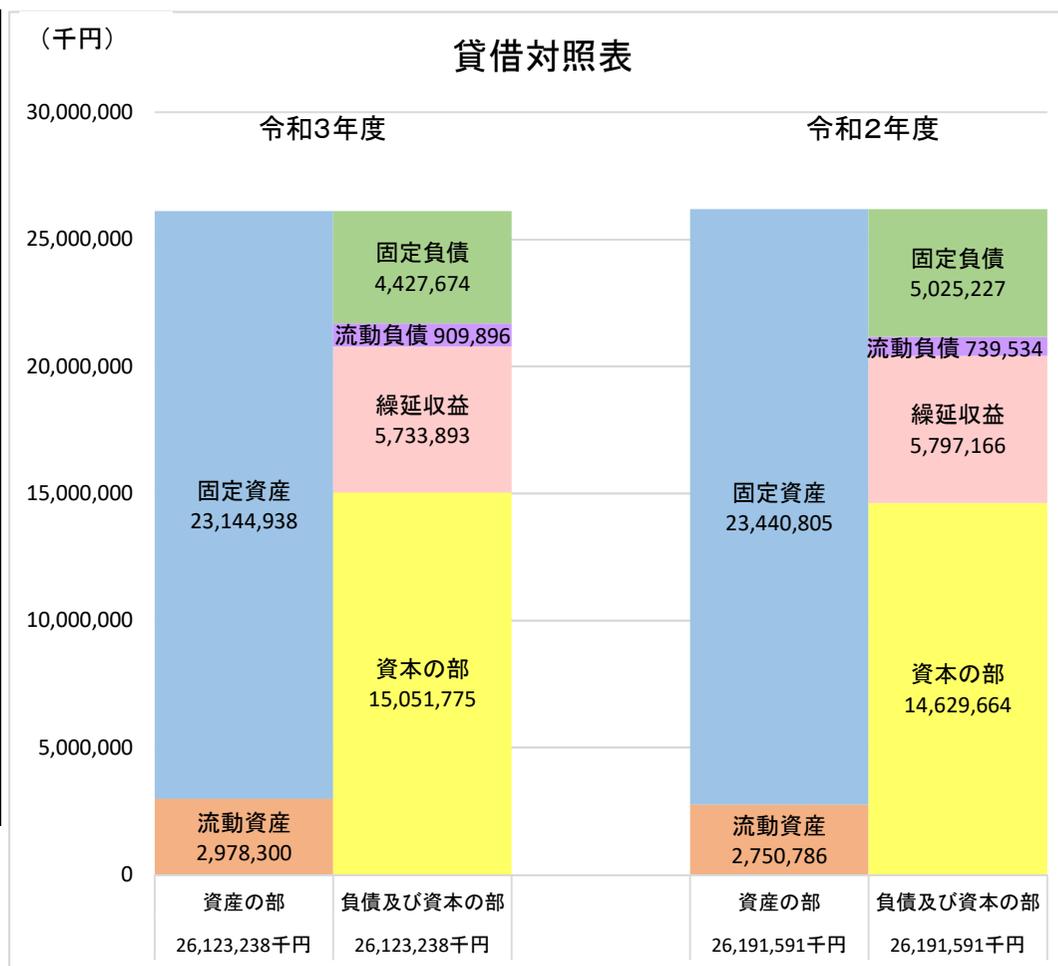
財政状態を表し、保有している財産の状況や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
資産	26,123,238	26,191,591	△ 68,353
固定資産	23,144,938	23,440,805	△ 295,867
流動資産	2,978,300	2,750,786	227,514
うち現金	2,800,037	2,631,600	168,437
負債	11,071,463	11,561,927	△ 490,464
固定負債	4,427,674	5,025,227	△ 597,553
うち企業債	4,427,674	5,025,227	△ 597,553
流動負債	909,896	739,534	170,362
うち企業債	597,553	596,412	1,141
繰延収益	5,733,893	5,797,166	△ 63,273
資本	15,051,775	14,629,664	422,111
資本金	12,597,496	12,247,496	350,000
剰余金	2,454,279	2,382,168	72,111
資本剰余金	230,853	193,990	36,863
利益剰余金	2,223,426	2,188,178	35,248
負債+資本 計	26,123,238	26,191,591	△ 68,353

令和3年度は企業債の借入を行わず、企業債償還等により負債は4億9,046万4千円減少しました。

また、前年度決算で取り崩した建設改良積立金の組入により資本金は増加しました。



5 キャッシュ・フロー計算書（決算書 25ページ）

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。

業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。

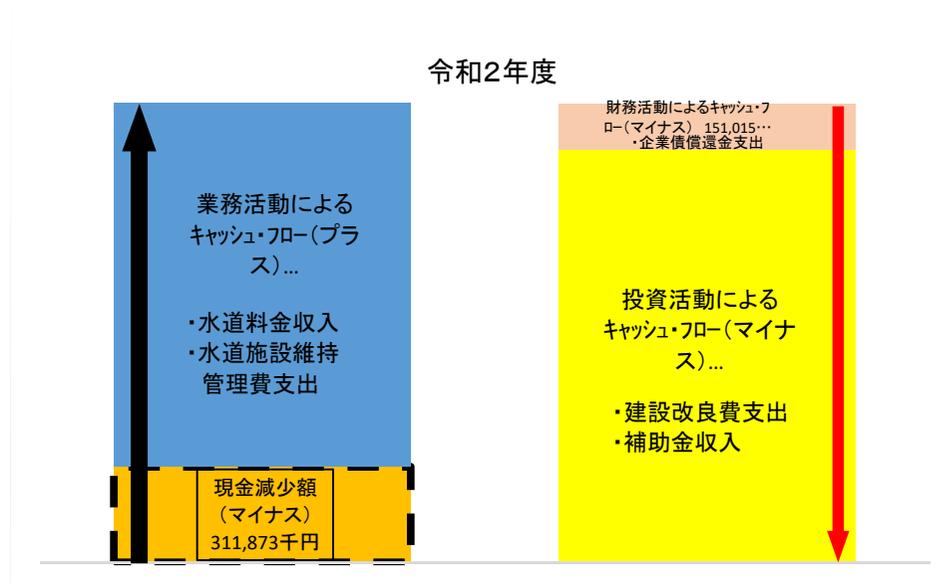
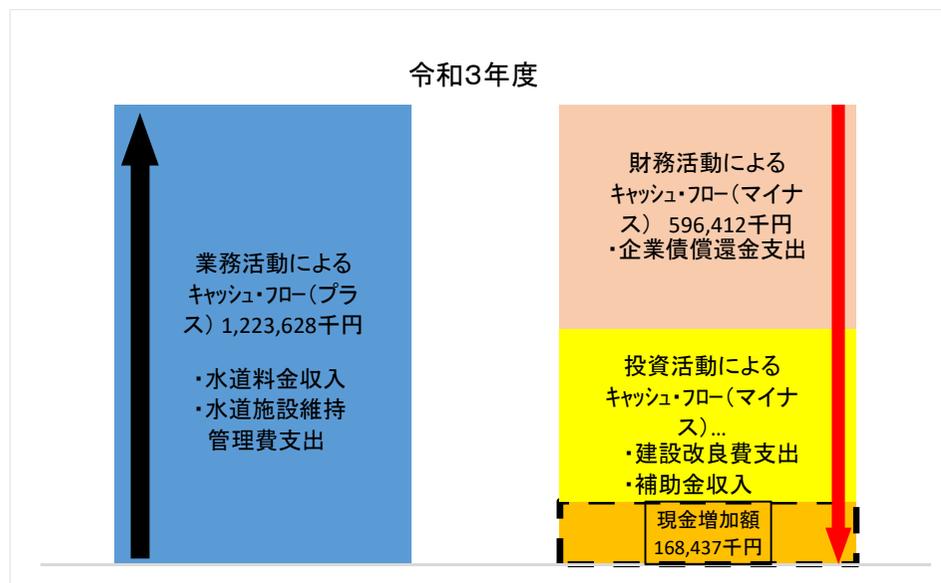
投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,223,628	1,183,669	39,959
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 458,779	△ 1,344,527	885,748
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 596,412	△ 151,015	△ 445,397
現金増減額	168,437	△ 311,873	480,310
現金期首残高	2,631,600	2,943,473	△ 311,873
現金期末残高	2,800,037	2,631,600	168,437

業務活動による現金は、3,995万9千円のプラスで順調な経営状況となっています。投資活動による現金は、8億8,574万8千円のプラスで主要管路整備、配水管布設替工事等の建設改良費を支出しました。財務活動による現金は、4億4,539万7千円のマイナスで企業債償還金を支出しました。現金の期末残高は、28億3万7千円となりました。

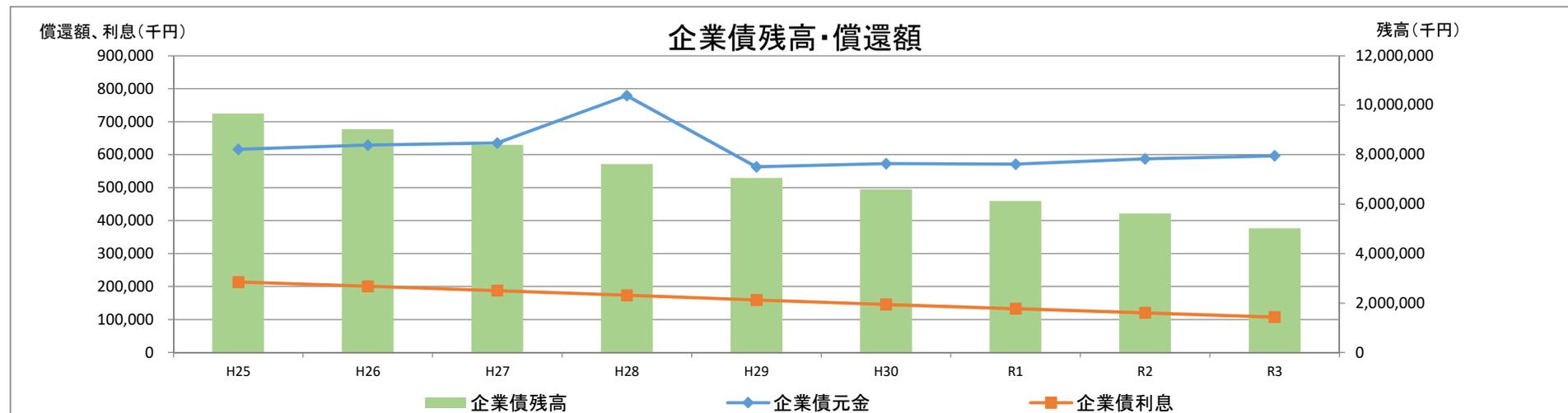


6 企業債（決算書 24ページ、31～32ページ）

(千円)

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年度末残高	7,054,430	6,603,580	6,125,655	5,621,639	5,025,227
借入額	0	122,000	93,000	83,000	0

5億9,641万2千円の元金償還により、令和3年度末の企業債残高は50億2,522万7千円となりました。
また、企業債利息として1億728万7千円を支払いました。



7 利益剰余金（決算書 6～7ページ）

(千円)

前年度からの繰越利益剰余金 A	900
当年度変動額 B	735,248
当年度純利益	385,248
積立金の取り崩し	350,000
当年度末処分利益剰余金 (C=A+B)	736,148



利益剰余金処分(案) (千円)

建設改良積立金の積立	△ 385,248
資本金への組入れ	△ 350,000
処分量 計 D	△ 735,248
	(千円)
翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D)	900

当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越額90万円と当年度純利益3億8,524万8千円、資本的収支の不足額を補てんするために建設改良積立金を取り崩した3億5千万円の合計7億3,614万8千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。

当年度の利益は、後年度の更新事業の財源に充てるため、建設改良積立金へ積立てます。

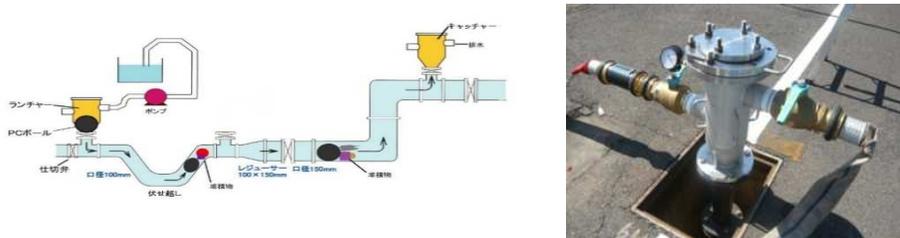
令和3年度に上水道事業で実施した主な取組みについて

①濁水対策事業

《配水管洗浄業務》

配水管内の急激な水量水圧変動により、水道管内の付着物の剥離など濁りが発生するおそれがあるため、水道管に排泥管を設置し水道管内のカメラ調査及び管内洗浄を実施しました。濁水が軽減され、安心安全な水道水の供給が可能となります。

洗管作業方法



●豊科真々部配水系 φ250、200 L=835m C=14,630千円

②老朽管(漏水)対策事業

《漏水調査》

配水本管や給水管の漏水調査を、多点相関型漏水探知機(データロガ)や音聴調査により実施しました。発見した漏水箇所については早期に修理を行い、漏水の多い路線については、優先的に管路の布設替を実施していきます。

漏水探知機



音聴調査



漏水箇所



●漏水調査業務委託 穂高 豊里C地区・宮城高区系 C=3,410千円

③計画的な施設更新と規模の適正化

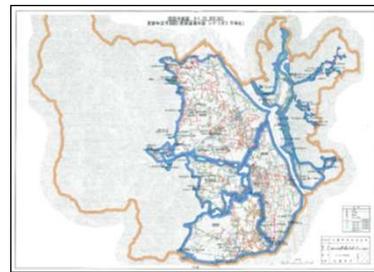
《アセットマネジメント策定業務》

水道施設の基本情報に基づいて、施設の老朽度を数値化し定量的に把握・評価し、更新の必要性の判断と水道事業としての更新の位置付けを検討しました。また、水需要予測の結果から適正規模を算出し、評価結果と合わせて更新需要及び更新方法の検討、更新費用の算出などを行いました。

現地調査



更新年度予測



●アセットマネジメント策定業務 C=9,130千円

④主要管路整備事業

《導水・配水管布設》

水源から拠点配水池に接続している導水管、災害時の避難所や病院等の重要給水施設と拠点配水池を結ぶ主要管路整備を行い、重要給水施設への給水ルートの耐震化を進めることができました。

管路掘削



管布設



舗装復旧



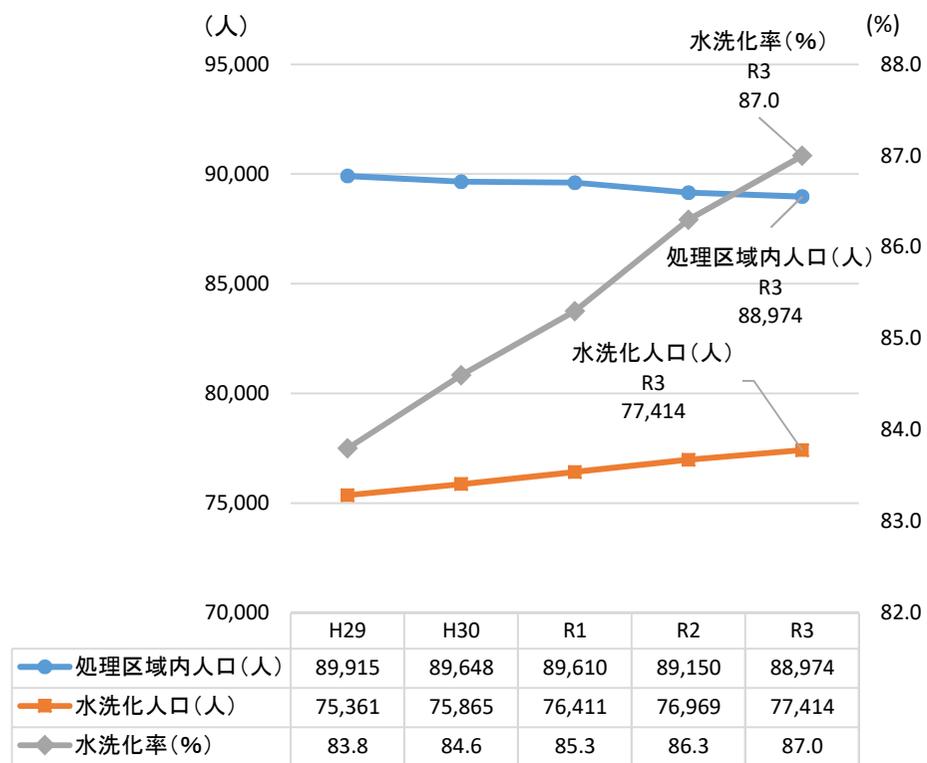
(三郷上長尾)

●主要管路布設工事 5路線 L=3,030m C=258,376千円 (豊科高家・穂高上原・三郷上長尾)

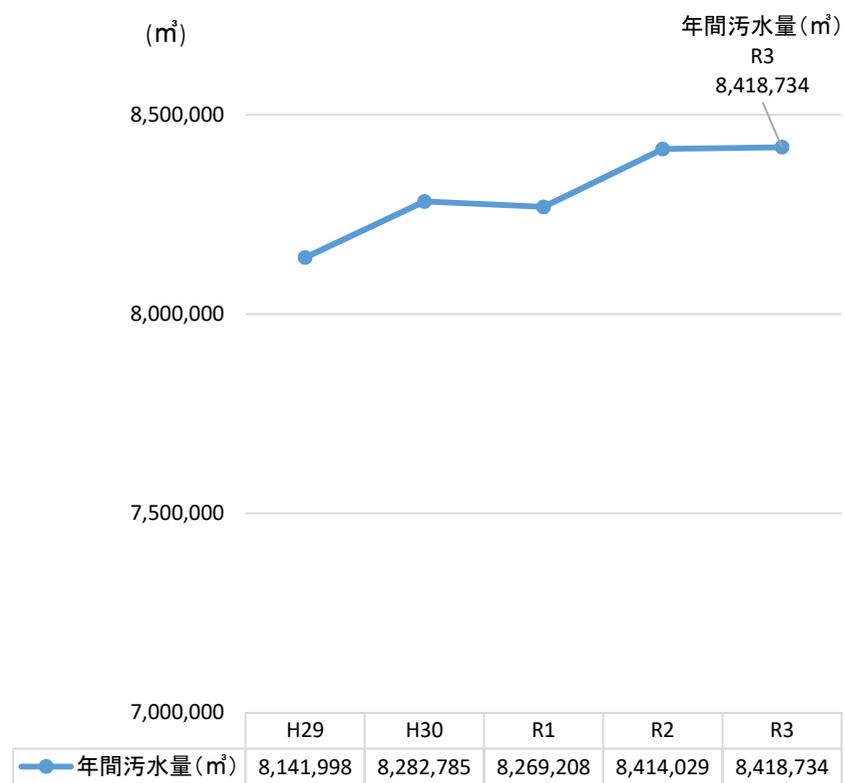
II 下水道事業決算概要

1 業務量 (決算書 47ページ)

処理区域内人口・水洗化人口・水洗化率



年間汚水量



2 収益的収支(損益計算書) (決算書 36~37ページ、48ページ、51~54ページ)

使われた水をきれいにして川に流すまでの収支状況です。

下水道がどのくらい使用され、その汚水を処理するまでにどのくらい費用がかかっているのかを表しています。

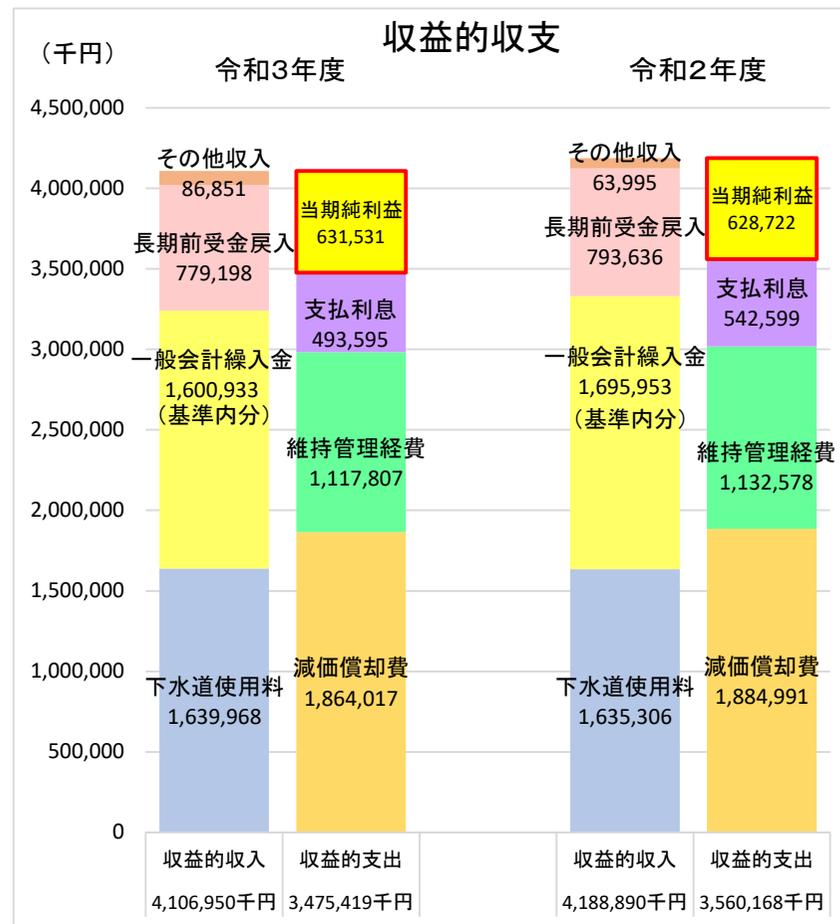
(千円) ※消費税抜き

収益的収支	令和3年度	令和2年度	増減	増減率
営業収益	1,665,214	1,667,606	△ 2,392	△ 0.14%
うち下水道使用料	1,639,968	1,635,306	4,662	0.29%
営業外収益	2,441,736	2,521,284	△ 79,548	△ 3.16%
うち一般会計繰入金	1,600,933	1,695,953	△ 95,020	△ 5.60%
収益計 ①	4,106,950	4,188,890	△ 81,940	△ 1.96%
営業費用	2,975,362	3,014,222	△ 38,860	△ 1.29%
うち減価償却費	1,864,017	1,884,991	△ 20,974	△ 1.11%
営業外費用	500,057	545,946	△ 45,889	△ 8.41%
費用計 ②	3,475,419	3,560,168	△ 84,749	△ 2.38%
経常損益 ①-②	631,531	628,722	2,809	0.45%
特別損益	0	0	0	
純損益	631,531	628,722	2,809	0.45%

収益は4億695万円で、支払利息の減少に伴う一般会計繰入金の減少などにより、8,194万円減少しました。収益合計の約4割は一般会計繰入金が占めています。

費用は3億475万9千円で、犀川安曇野流域下水道維持管理負担金、減価償却費及び支払利息の減少に伴い、8,474万9千円減少しました。

純損益は280万9千円増加し、6億3,153万1千円の黒字となりました。



3 資本的収支 (決算書 34~35ページ)

下水道施設の整備と企業債償還を行うための収支状況です。

(千円) ※消費税込み

資本的収支		令和3年度	令和2年度	増減	増減率
資本的収入 (a)		833,890	819,900	13,990	1.71%
	うち資本費平準化債	400,000	362,100	37,900	10.47%
資本的支出 (b)		2,602,578	2,519,436	83,142	3.30%
	うち企業債償還金	2,453,448	2,390,636	62,812	2.63%
資本的収支不足額 (a) - (b)		△ 1,768,688	△ 1,699,536	△ 69,152	4.07%
上記 補てん 財源	消費税資本的収支 調整額	647	0	/	
	損益勘定留保資金 (※1)	1,139,341	989,636		
	減債積立金	628,700	709,900		

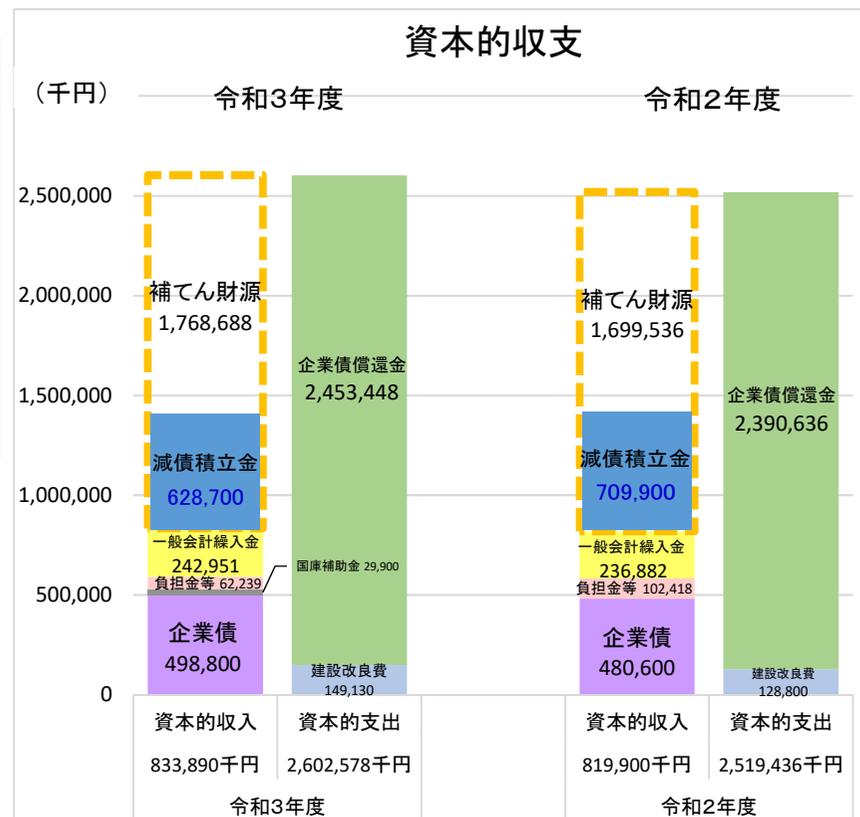
資本的収入は8億3,389万円で、企業債の借入れ及び一般会計繰入金の増加により、1,399万円増加しました。

資本的支出は26億257万8千円で、広域監視装置更新工事に伴う建設改良費の増加や企業債償還金の増加により、8,314万2千円増加しました。

収支差引で不足する17億6,868万8千円は、過年度分損益勘定留保資金4億6,824万7千円、当年度分損益勘定留保資金6億7,109万4千円と減債積立金6億2,870万円の取り崩しなどにより補てんしました。

(※1) 損益勘定留保資金

施設の減価償却費などの現金の支出を必要としない企業内部で留保される資金



(参考) 一般会計繰入金収入額の比較 (決算書 49ページ、51ページ)

(一般会計負担金)

(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
一般会計繰入金合計	1,845,845	1,934,668	△ 88,823
収益的収入	1,602,894	1,697,786	△ 94,892
資本的収入	242,951	236,882	6,069

※収益的収入グラフとの差額は基準外繰入金(営業収益)分です。
(令和3年度 1,961千円、令和2年度 1,833千円)

(千円)

収益的収入 基準内繰入金	1,600,933
収益的収入 基準外繰入金	1,961
上記合計	1,602,894

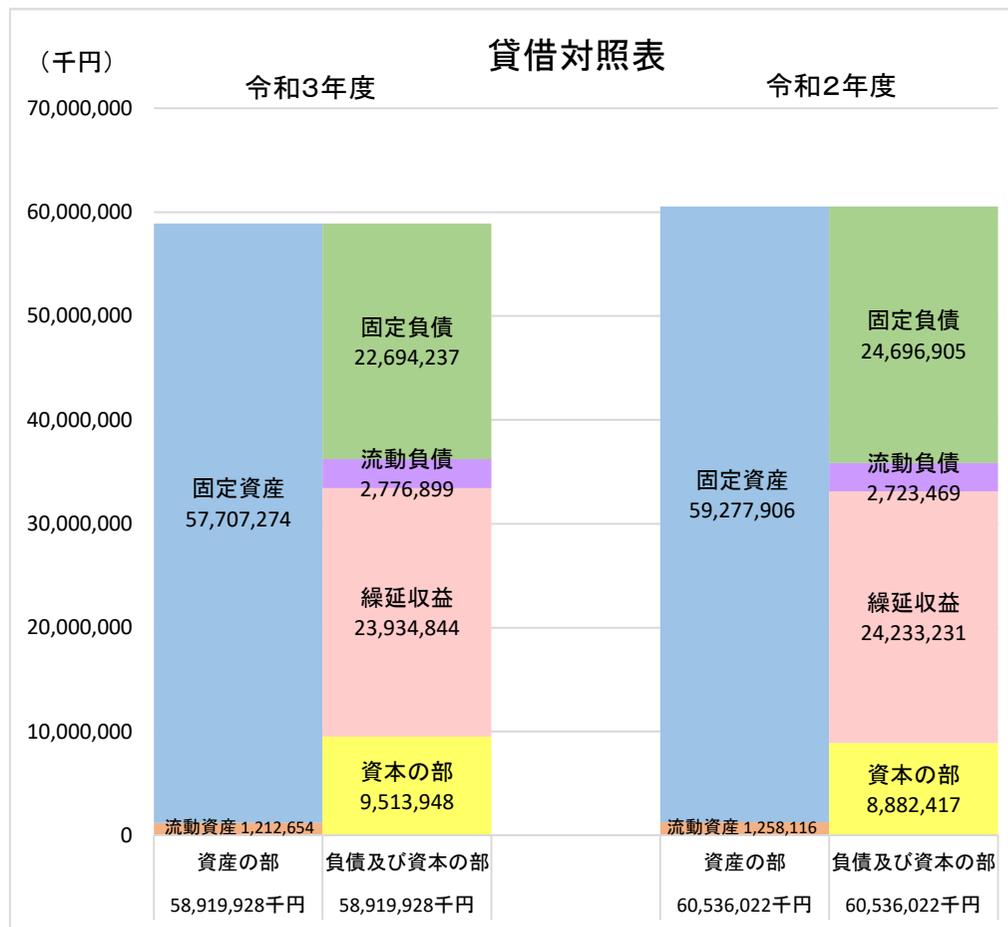
4 貸借対照表 (決算書 40~41ページ)

財政状態を表し、保有している財産や、抱えている借入金の状況などを明らかにしています。

(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
資産	58,919,928	60,536,022	△ 1,616,094
固定資産	57,707,274	59,277,906	△ 1,570,632
流動資産	1,212,654	1,258,116	△ 45,462
うち現金	1,115,251	1,138,951	△ 23,700
負債	49,405,980	51,653,605	△ 2,247,625
固定負債	22,694,237	24,696,905	△ 2,002,668
うち企業債	22,694,237	24,696,905	△ 2,002,668
流動負債	2,776,899	2,723,469	53,430
うち企業債	2,501,467	2,453,448	48,019
繰延収益	23,934,844	24,233,231	△ 298,387
資本	9,513,948	8,882,417	631,531
資本金	7,856,073	7,146,173	709,900
剰余金	1,657,875	1,736,244	△ 78,369
資本剰余金	397,447	397,447	0
利益剰余金	1,260,428	1,338,797	△ 78,369
負債+資本 計	58,919,928	60,536,022	△ 1,616,094

企業債残高が251億9,570万5千円で、負債合計の約51%を占めています。また、前年度決算で取り崩した減債積立金を資本金へ組入れたため、資本金が増加しました。



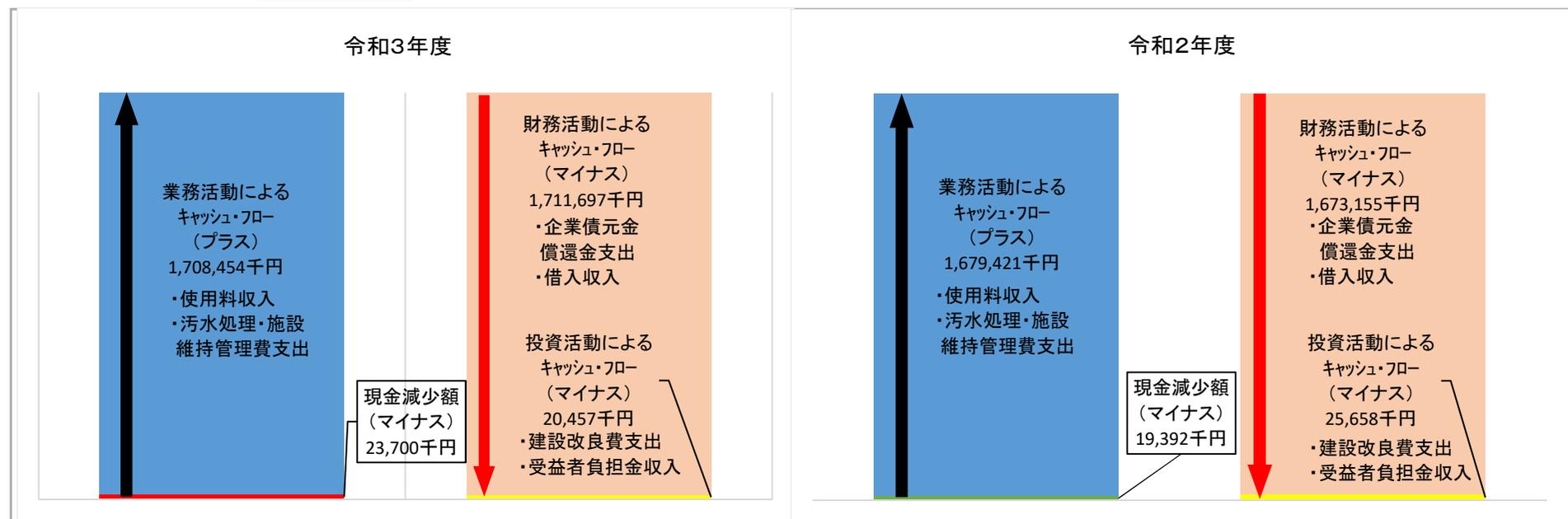
5 キャッシュ・フロー計算書 (決算書 50ページ)

1年間の現金収入や現金支出を「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3種類に区分けして、現金の流れを表します。
 業務活動によるキャッシュ・フローでは、主たる業務活動に伴う現金の増減を表します。プラスになっていることが原則で、多いほど事業活動が順調と言えます。
 投資活動によるキャッシュ・フローでは、施設の整備や固定資産の取得に伴う現金の増減を表します。通常はマイナスとなります。
 財務活動によるキャッシュ・フローでは、資金調達や企業債の償還に伴う現金の増減を表します。企業債を償還した場合はマイナス、借入れた場合はプラスとなります。

(千円)

	令和3年度	令和2年度	増減
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,708,454	1,679,421	29,033
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 20,457	△ 25,658	5,201
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,711,697	△ 1,673,155	△ 38,542
現金増減額	△ 23,700	△ 19,392	△ 4,308
現金期首残高	1,138,951	1,158,343	△ 19,392
現金期末残高	1,115,251	1,138,951	△ 23,700

業務活動による現金は、2,903万3千円のプラスで順調な経営となっています。投資活動による現金は520万1千円のプラスで、犀川安曇野流域下水道事業にかかる負担金等を支出しました。財務活動による現金は、3,854万2千円のマイナスで企業債の償還金を支出しました。現金の期末残高は、11億1,525万1千円となりました。

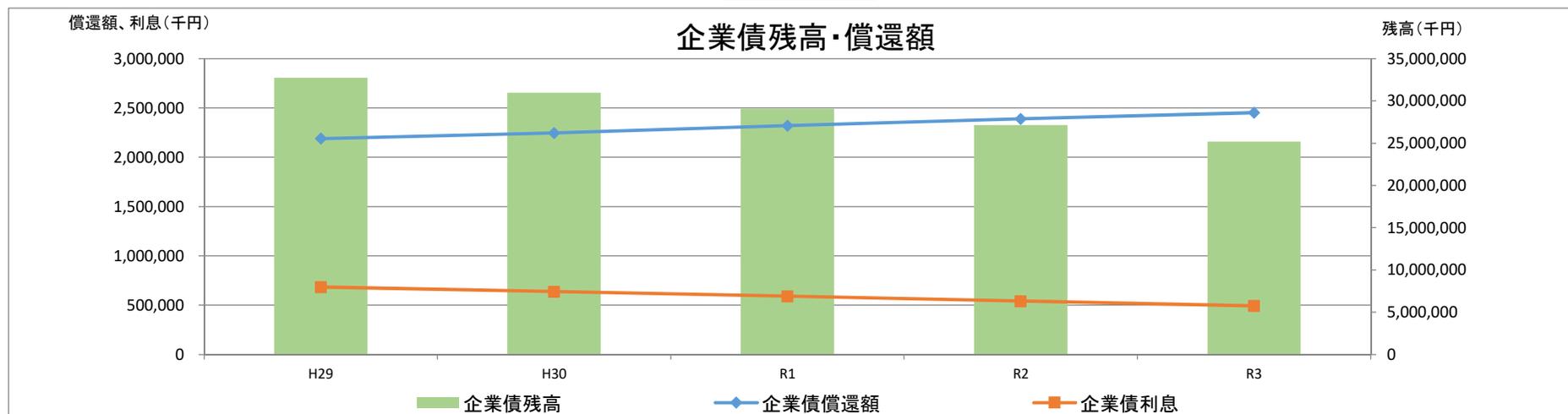


6 企業債（決算書 49ページ、56～69ページ）

(千円)

年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
年度末残高	32,730,946	30,963,734	29,060,390	27,150,353	25,195,705
借入額	221,900	478,900	418,100	480,600	498,800
うち資本費平準化債	0	322,100	362,100	362,100	400,000

令和3年度は、下水道事業債9,880万円と資本費平準化債4億円を借り入れました。
一方で、24億5,344万8千円の元金償還により、年度末の企業債残高は251億9,570万5千円となりました。
また、企業債利息として4億9,359万5千円を支払いました。



7 利益剰余金（決算書 38～39ページ）

(千円)

前年度からの繰越利益剰余金 A	196
当年度変動額 B	1,260,231
当年度純利益	631,531
積立金の取り崩し	628,700
当年度末処分利益剰余金 (C=A+B)	1,260,427

利益剰余金処分(案)

(千円)

減債積立金の積立	△ 631,500
資本金への組入れ	△ 628,700
処分額 計 D	△ 1,260,200
翌年度への繰越利益剰余金 (E=C-D)	227

当年度末処分利益剰余金は、前年度繰越額19万6千円と当年度純利益6億3,153万1千円、資本的収支の不足額を補てんするために減債積立金を取り崩した6億2,870万円の合計12億6,042万7千円となりました。

剰余金の処分は、市議会での認定議決を受けて実行します。
当年度の利益は、企業債償還の財源に充てるため、減債積立金へ積立てます。

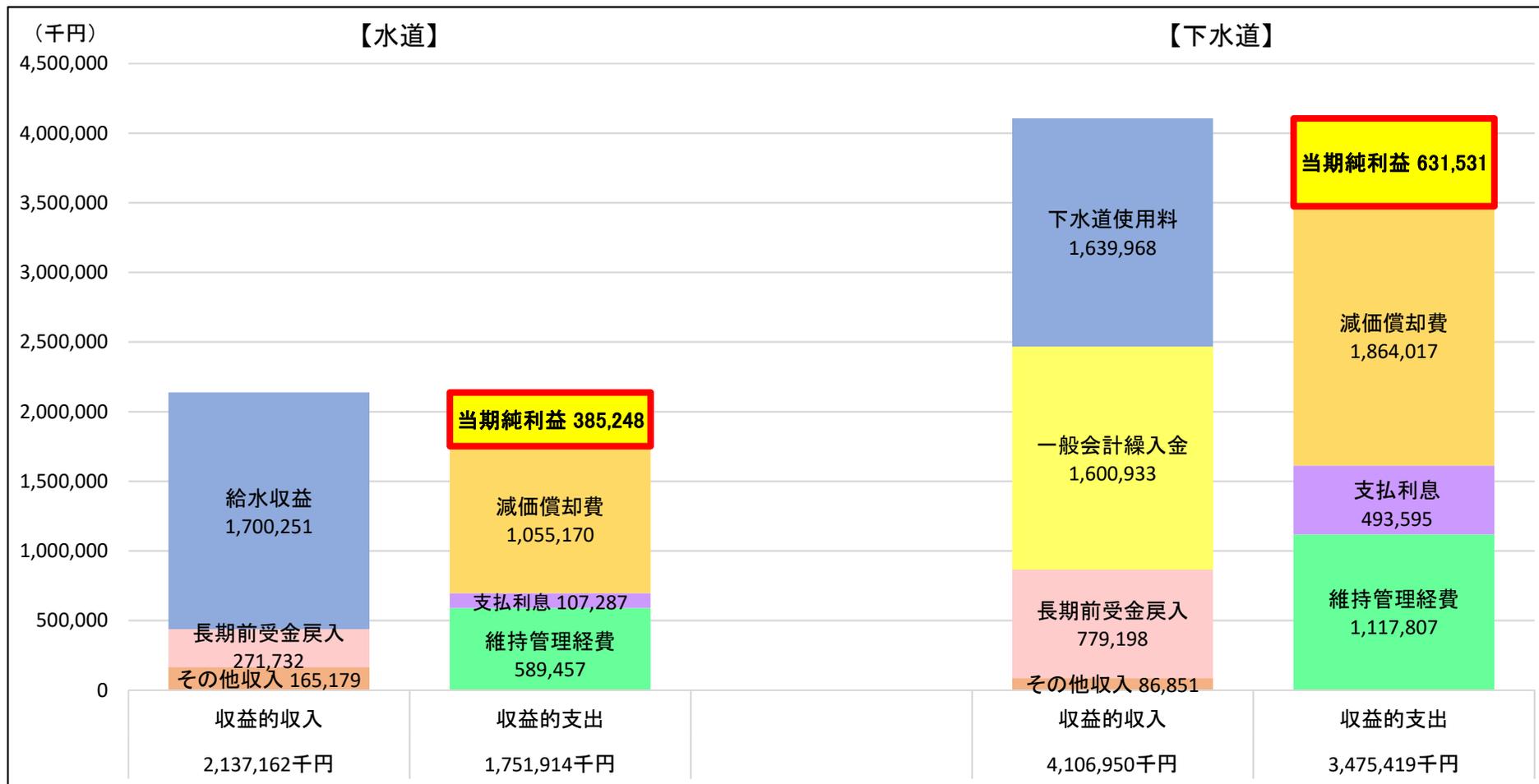
令和3年度に下水道事業で実施した主な取組みについて

①施設の維持管理	②水洗化率の向上対策(広報)
<p>《 下水道施設維持管理 》</p> <p>処理場5施設及びマンホールポンプ場161箇所、管きよ797kmの適正な運転管理と施設の維持に取り組み水環境の保全に努めました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>管路自走式カメラ調査 L=1,898m実施</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>管口カメラ調査 594箇所実施</p> </div> </div> <p>●維持管理費 C=185,245千円 委託費:147,998千円 汚泥処分費:19,385千円 修繕費:17,862千円</p>	<p>《 マンホールカード『みずかがみ(水鏡)』 》</p> <p>「マンホールカード」は、全国各地の文化・名所・名産品等をデザインした特徴あるマンホール蓋をコレクションできるカードで、小さなパンフレットの役割を果たしています。</p> <p>このカードは、「公益社団法人 日本下水道協会」が事務局を務める下水道広報プラットフォームが企画し、シリーズ累計837種、607自治体のカードが発行されており、安曇野市のカードが第14弾に選ばれたことから発行の運びとなりました。</p> <p>路上を飾るご当地ものとしてマンホール蓋が市民の関心を集め、今後の水洗化率の向上につながることを期待されます。</p> <p>なお、希望者には下水道課窓口にて無料配布しています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>●印刷製本費 C=88千円</p>
③施設の適正な管理・長寿命化対策	④流域下水道事業
<p>《 スtockマネジメント計画の実施 》</p> <p>経年経過に伴う老朽化施設の増加により、改築時期や改築費用が一時的に集中することが想定されます。今後、施設の計画的な点検、長寿命化対策が必要になるため、令和2年度に下水道ストックマネジメント計画を策定しました。令和3年度はこの計画に基づき、市内処理場5施設とマンホールポンプ場161箇所の「広域監視通報装置更新工事」を行い、通信環境の向上を図りました。</p> <p>今後、災害時、緊急時における情報収集時間が短縮され、被害の拡大防止効果が見込まれます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>通報装置交換前</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>通報装置交換後</p> </div> </div> <p>ストックマネジメント全体計画 (R3~R7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域監視通報装置 更新 166箇所 ・マンホールポンプ設備 更新 7箇所 ・管きよ改築 L=41m <p>●更新工事費 C=77,275千円</p>	<p>《 建設負担金 》</p> <p>長野県が施行する流域下水道建設改良事業の地元負担金を支出しました。(令和3年度 事業内容)</p> <p>計装設備更新工事、汚泥濃縮棟耐震化工事、ブロワー棟耐震化工事、消火災害防止設備更新工事など</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>汚泥濃縮棟耐震化工事(鉄筋探査作業) ブロワー棟耐震化工事(コンクリート増し打ち)</p> <p>●流域下水道事業費 C=70,247千円</p>

Ⅲ 水道事業・下水道事業の比較

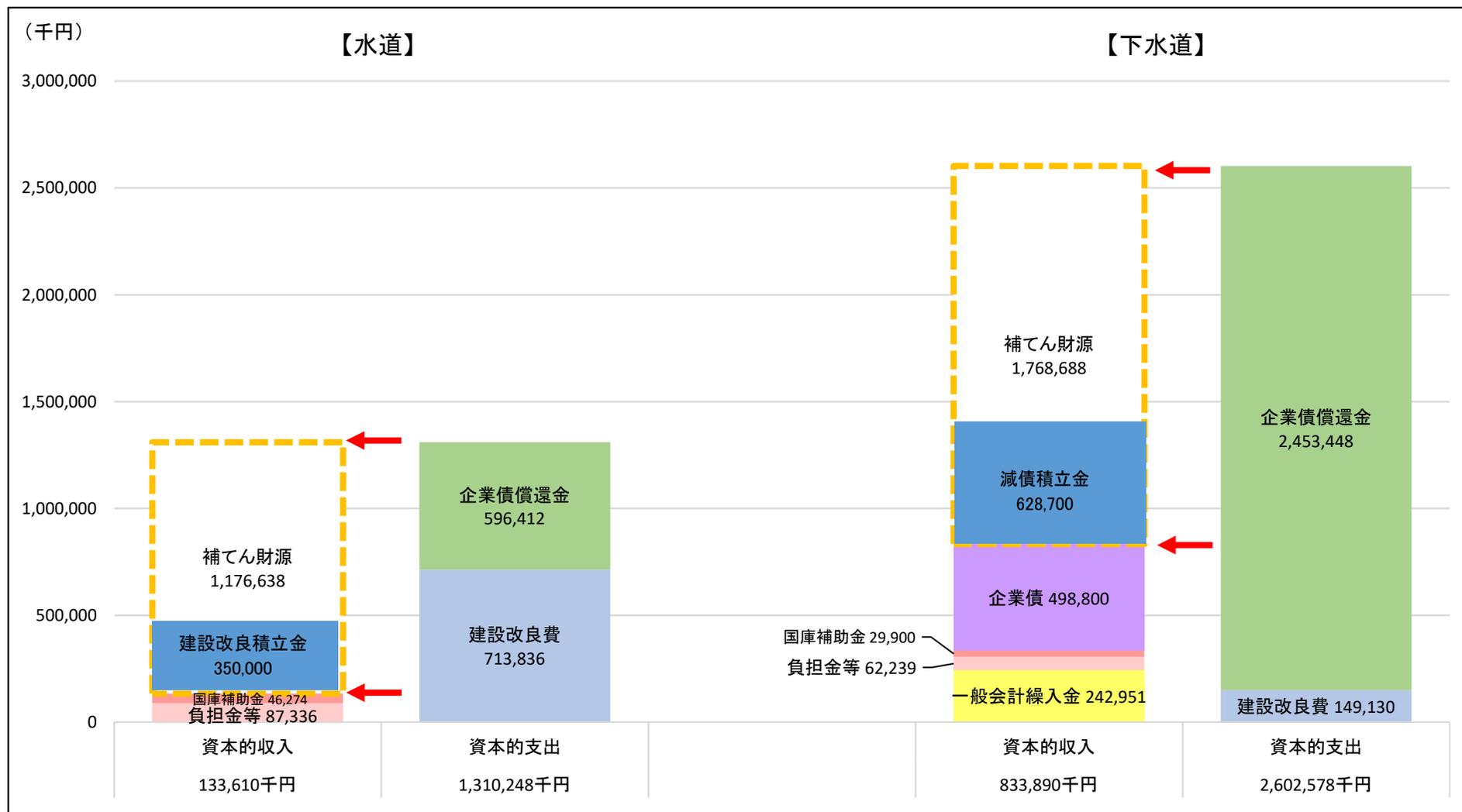
1 収益的収支(損益計算書)

水道事業では、給水収益で費用のほとんどを賅っていますが、下水道事業では、使用料収入だけでは費用全体の4割程度しか賅っていません。下水道事業の経営には、一般会計からの繰入金が必要不可欠であることが分かります。



2 資本的収支

2事業とも施設の整備等に係る財源の不足が発生します。水道事業は、過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金（減価償却費等）や建設改良積立金などにより、不足分を補てんしています。同様に下水道事業も過年度及び当年度に発生した損益勘定留保資金や減債積立金などにより不足分を補てんしています。



3 貸借対照表

財政状態を比較すると、水道事業は資産、負債ともに下水道事業のおおよそ4割となり、事業規模の差がよく分かります。水道事業は主要管路布設替工事、下水道事業は流域下水道建設負担金の財源として企業債の借入れを行いながら、多額な償還も行っています。

